

杜陵だより
第4-1号
発行: 岩手県立杜陵学園
(児童自立支援施設)
〒020-0124 盛岡市
岩手県盛岡市
岩手川二丁目3番1号
電話: 019-641-3365

巻頭言

岩手県立杜陵学園長 蛭田嘉男

最初はすぐに収束すると思っていたコロナ感染症。気が付くと3年目となり、いまだに収まる気配はない。当学園の日課や行事の制限は続き、主たる活動である野球やバトミントンは大会が中止になるなど練習のモチベーション維持にさえ苦慮してきた。

特に今年度は全日本少年野球大会の開催県となっており、地区大会さえ経験のない職員が多数の中、大会運営のイメージもできず、さらに感染対策を十分に行いながらの大会運営ができるか検討を重ねてきた。

今年度になり、県によって温度差はあったが、東北・北海道地区の予選は参加可能な4チームで何とか実施にこぎつけた。野球は2試合とも大敗したが、他県への遠征やホテルでの宿泊、他の学園との交流など普段は経験できない体験をした。また、出場はできなかったものの、全日本少年野球大会ではボランティアとして必死に頑張っている児童の姿を見ると、児童だけでなく職員にとっても予想以上に大きな収穫があったと実感した。

児童自立支援施設は他の児童福祉施設と比較し、閉鎖的であり、生活自体がパターン化し、学園の運営も硬直化する恐れが多い。特に他の施設との交流が持ちにくい最近の状況では、そのことにさえ気づかない危険性がある。ようやくコロナ感染症にも慣れ、少しずつ職員の集合型の研修も再開されてきている。久しぶりに外に出て、対面で学び、改めて日頃の自分たちの業務を振り返る良い機会である。これまで当たり前だった対面で学び、交流することの大切さ、ありがたさをひしひしと感じている。

最後に全日本少年野球大会の運営に当たっては多くの関係機関等からご協力をいただいた。この場を借りて感謝したい。

野球部

第七十三回全日本少年野球東北・北海道地区宮城大会が、六月二十九日に行われました。今年度は、「一球協力」責めない、プラスの声出し」をスローガンとして掲げ、人数が少ない中でもお互いを励まし合って頑張れるようなチーム像を目標に取り組みました。児童それぞれが、調子を崩して、練習にならない日もありました。それでも、職員との振り返りによって、練習に復帰する児童が多かったです。

技術面では、基礎練習を重点的に実施しました。野球経験がない児童がほとんどを占めていたため、塁間のキャッチボールも不安定な状態でした。練習内容を工夫しながら、少ない練習時間で、効率的に取り組めるメニューを考え、実施してきました。児童は同じ練習の繰り返しで、飽きたり、疲れたりしたと思います。それでも、リタイアせずに大会当日まで頑張りました。

大会当日、開会式は規模縮小により簡略化したものでしたが、児童の話を聞く態度は立派でした。試合については、第一試合にさわらび学園（宮城）と対戦し、二対十五で敗れ、三位決定戦で福島学園（福島）と対戦し三対十四で敗れました。

炎天下で、試合も大差がついた状態ではありましたが、途中で投げ出す児童は一人もいませんでした。思うようにいかずにシヨックを受けている様子はありましたが、試合の中で立ち直り、最後まで戦い抜くことができました。

両試合とも、敗れましたが、児童の成長が感じられる試合内容であったと思います。仲間と練習に取り組み、大会に参加し、緊張感や楽しさを一緒に味わうことができる良い経験であり、成長の糧になったと思います。

これからも児童のさらなる成長のためにスポーツ指導を継続して参りますので、今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。（岩脇）

バドミントン活動

野球大会後のスポーツは、昨年同様バドミントンに取り組みました。北東北3県で競う北奥羽スポーツ交歓会は昨年に続き新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいましたが、9月6日に学園内でユニフォーム納めを実施し、児童チームと職員チームで団体戦を行いました。結果は2対3で惜しくも職員チームに敗れる結果となりましたが、全員が練習の成果を十分に発揮し、どの試合も白熱した展開となりました。

練習では、野球の東北大会での悔しさを晴らす思いで懸命に取り組みました。途中で大会が中止になることが分かってからも、モチベーションを落とすことなくユニフォーム納めまで練習に取り組む姿勢からは、児童の成長を感じることが出来ました。
(田中)

矢巾町 ロードレース大会

バドミントン活動終了後は、マラソンに取り組みました。今年度は矢巾町ロードレース大会に参加し、男子は5km、女子は3kmを走り切ることに挑戦しました。練習開始当初は、男子は3km、女子は2kmを走り切ることでさえも精一杯という状況でしたが、大会まで一か月もない中で、子どもたちは良い結果を残そう、悔いのないよう走り切ろうと思いいきに意気込んでおり、その思いが練習に良い影響を与えています。大会当日は天候にも恵まれ、絶好のマラソン日和となりました。

結果は全員が自己ベストを出し、完走するという最高のものになりました。子どもたちには、マラソンを通じて、辛くとも己と向き合い続けることの大切さ、その努力が結果となって表れる喜びを感じてもらえたと考えます。この経験が、今後の学園生活、ひいては退園後の地域での生活にも生かされることを期待しています。

(千葉)

遠足

今年度の遠足は、五月二十七日に「くずまき高原牧場」に行ってきました。当日はあいのくの雨でしたが、育成牛の世話、アイスクリーム作り、肉牛の世話、しいたけ栽培の体験を行うことができました。

どれも貴重な体験でしたが、中でも児童が真剣な表情で取り組んでいたのが育成牛と肉牛の世話でした。牛舎にいる牛に干し草を与える際に、干し草の大きさや形を見ながら、どうやって与えたら食べてくれるか試行錯誤しながら干し草を与えている姿が印象的でした。施設の方からは命の大切さの講話もあり、命の大切さを考える貴重な体験となりました。

遠足全体を通して、マナーや挨拶も良かったと思います。学園・学校を離れて普段できない貴重な体験ができた一日でした。

後日、児童は振り返り作文を作成し、自分の行動をしっかりと総括できました。作文を通して、遠足で学んだことや今後に生かしたいことを見つけたことが伝わりました。(熊上)

児童入所状況

(単位:名)

月	4	5	6	7	8	9	延計
月初 人数	6	8	10	10	9	9	
月中 入所	2	2	0	0	0	0	4
月中 退所	0	0	0	1	0	0	1

皆様からの御意見・御感想はインターネットで受け付けております。

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=423&ik=3&pnp=17&pnp=61&pnp=423>

行事予定(10月~3月)

- 10月：学習発表会
- 12月：2学期終業式、
クリスマス会、
冬季一時帰省
- 1月 3学期始業式
- 2月 スキー教室
- 3月 修了式・卒業式、
退園式

編集後記

今年度も編集担当をさせていただきましたこととなりました。今年度は年二回の発行となりましたが、前年度よりも充実した、読んでいただいていたと思います。今後、まだまだ多くの行事を控えておりますので、子どもたちの充実した日々をお伝えできればと思います。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

(千葉)